

「明治150年」についての所感

山内昌之 東京大学名誉教授

○ 「明治150年」を回顧する積極的視点

〈明治維新の歴史的意義〉

- ◆ 明治維新と明治150年の歴史的意義。270の藩つまり「半国家」「准国家」が独立割拠して個別に外国と条約を結ぶ事態が避けられ、統一国家としての近代日本を立ち上げた意義に尽きる。廃藩置県・徴兵制・地租改正の実施によって、ヨーロッパをモデルとした主権独立国家体制を築き上げた。

〈原因と結果〉

- ◆ 統一国家を築く近代革命の過程では、内戦により多数の犠牲者を出した例が多い。が、戊辰戦争における戦死者は他国の例に比して少なく、犠牲者が最小限にとどまった。戊辰戦争で8200人、西南戦争で1万2200人。刑死などを合わせても3万人前後。人口が維新时期日本の80%（2700万）のフランス大革命では内乱と処刑だけで65万人、戦争を入れると100万。明治維新と同時期の米国の南北戦争では、両軍合わせて50万の戦死者。
- ◆ 欧米の場合、統一国家の形成後も地域対立が残存したり、内戦に敗れた側が政府から排除されたりする例が多い。他方、日本の場合は内戦に伴う憎悪を継続させることなく、維新後すぐに勝海舟は海軍卿、第一次伊藤内閣と黒田内閣には幕臣として榎本武揚も入閣。会津藩からは柴五郎陸軍大将、林権助駐英大使も出る。
- ◆ 幕末から明治にかけての近代化と産業化では、藩と地方の自立性が特徴。例、反射炉（鉄製錬のための金属融解炉）は、伊豆韮山、江戸滝野川、佐賀藩、薩摩藩、水戸藩、鳥取藩、萩藩、島原藩などで自律的に建設。
- ◆ 幕末期の就学率と識字率の高さ。江戸の庶民層では70-80%、江戸中心部では90%、同時代のロンドンでは10%。日本橋、赤坂、本郷では、男子よりも女子の手習い修学数の方が多い。フランス革命期の1794年に初等教育が無料となっても、10-16歳の就学率はわずか1.4%にすぎない。

○ 「明治150年」の記念プロジェクトの一例

【歴史的遺産関係】

- ◆ 明治の産業遺産、たとえば反射炉や水力発電所（例えば琵琶湖・蹴上のような疎水・インクラインと発電所と電鉄、水路閣と南禅寺の組み合わせのように）全国に存在する近代と近世以前とのコラボレーションの見直しや国際発信事業などを通して、薩長の主導性や江戸（東京）の中心性の確認だけでなく、明治150年の全国性や普遍性を再認識する試み。

【女性・若者関係】

- ◆ 明治期に活躍した女性の顕彰や回顧、津田梅子はじめ岩倉使節団参加の女性たち、シーボルトの娘にして医師として活躍した楠本伊篤（イネ）など。明治時代に医学や技術、ものづくりで活躍した女性や若者にスポットを当てる事業。また、過去を振り返って見えるものは、未来へのビジョンでもある。未来を担う若者に、歴史を素材・教訓として日本の在り方を考えてもらうことも、「明治150年」の意義ではないか。義務教育の普遍化、高等教育の複線化と多様な機会の導入、高等文官各科はじめ「国家公務員」への採用任用の機会と競争の公平性。

【外国人・国際交流関係】

- ◆ 明治に受けた「恩」を忘れないことも大事。お雇い外国人を取り上げ、海外との交流行事も良いアイデアだと思う。和魂洋才の精神とグローバル化を考える素材。お雇い外国人の功績は多分野にわたるが、単に西欧の新知識輸入だけでなく、日本の個性や国情を踏まえ、親身に助言をしてくれた人物が多い。この点が同時代のトルコやエジプトと異なる。たとえば、英国人エドモンド・モレルは鉄道枕木に日本の国産木材を使うことを進言。ボアソナードは条約改正の際にエジプトの混合法廷方式の導入を拒否することを忠告。

【スポーツ関係】

- ◆ 東京五輪と「明治150年」を受けて、日本の伝統的な武術・武道がいかに国際化していったのか、柔道、剣道、空手、相撲などの国際化の含蓄を受けて、可能な武術については「150年記念武道大会」の開催も興味深いのではないか。

以上